

観光庁アドバイザー・ボード（第2回）議事概要（速報版）

1．日時 平成21年4月24日（金）15：00～17：00

2．場所 国土交通省観光庁国際会議室

3．出席者

【メンバー】

生田 正治 氏、奥田 務 氏、絹谷 幸二 氏、中田 英寿 氏、モンテ カセム 氏
吉田 忠裕 氏

【観光庁】

本保長官、神谷次長、西阪審議官、大黒観光地域振興部長 ほか

4．メンバーからの主な意見

持続的且つ調和的なインバウンドの伸張を期するために、地域の人口のサイズ、道路、食料や水事情、宿泊施設、廃棄物等々、受け入れ態勢を今からよく調査し、必要に応じて整備して、観光の負荷の最小化をはかる努力をするべきである。

プロモーション地域の拡大について、例えばヨーロッパは、観光客が世界中から集められているために景気悪化による打撃が小さい。日本の観光客は東アジアが中心なので、景気動向に左右されやすい。このような観点からも対象を拡大することが重要。特に、東アジア・欧米だけでなく、アラブのオイルマネーにも目を向けるべき。

観光地について、地域ごとに（プロモーションの対象としている）重点地域がバラバラになっている印象がある。外国から見ても県単位でバラバラと来る。重点地域を拡大するのはいいことだが、国として力を入れる地域を示すとともに、インバウンドの機能を持っている地域とよくコミュニケーションを取り、プロモーションの重点化・効率化を図るべき。

観光庁の中で観光をやるのは当然だが、その一方で日本の国をこれからどうしていこうとするのか、その手段として「観光」を使っていく、そういう大きな戦略を考え、その中で何をするのかを考えるべき。

観光は外交の基本の一つだが、その対象から中東が抜けている。中東は資源外交の点で重要であり、加えてお金がある。中東からの受入のためには言語や食文化の問題があるので、人材育成や情報発信をしていくべき。

人材育成で重要なのは言語。若者に言語の魅力を伝えるため、言語学をもっと学ばせ、日本を言語大国にすべき。

内閣府発行のフリー雑誌「ハイライティングジャパン」は読みやすい。こういうところに観光を載せていくことを検討していくべき。シナジー効果も見込まれる。

アウトバウンドについて、日本の資源のひとつは団塊の世代。高齢者でも観光のしやすいユニバーサルアクセスの考え方を意識すべき。

外国人観光客向けの割引シアターチケットが少ない。さらに交通機関についても、ジャパンレールパスがあるが、のぞみに乗れないなど使い勝手が悪い。安く利用できるものをもっと増やすべき。

国内観光旅行の振興は景気対策としても大事。ロングステイで単価が安いものになっていく傾向になるだろうが、マーケットの量的な側面だけでなく、質的な側面にも注目することが必要。

今後の日本の観光は新しい発想、視覚重視型で考えないといけない。だとすれば、無電柱化を進めるべき。景気対策として残っている大型インフラだ。ただ、視覚のみに偏るべきでもなく、五感で楽しむ観光というものがあってもいい。受身だけではなく、参加型の観光など、新しい創造的な観光資源の活用も進めてほしい。

アウトバウンドの目的地を増やすべき。外務省と連携して従来にない感性豊かな発想で目的地を開発していかなければならない。

発足以来これまで観光庁はニュースになってきたが、もっと情報発信をするべき。発足直後の情報とある程度のステージに入った際の情報、継続的に発信すべき情報とそうでない情報など、情報の内容はいろいろなので、それに伴い発信の仕方いろいろだろう。

国際会議について、会議を誘致するというだけでなく、(事務局などが)呼び込んだ人たちにどのように日本国内を観光させるかということセットで考えてほしい。

日本中の会社が産業観光をやったら面白いのではないかと考えている。

多くの都市で姉妹都市の取組があるが、何年か経つと萎んでしまっているところも結構ある。これをどうにか活性化できないか。富山県では中学生の修学旅行先として交流している。若い感受性の高い時に旅に出ることの効果も大きい。

映画や音楽を通じて日本のシーンを世界に出していけないか。日本の各地域の良いものを国際的なレベルに持ち上げることができれば。観光圏でフレームワークはできているので、これからはどうやって仕掛けていくかが重要になる。

日本の旅館の多くは1部屋料金でなく1人料金。日本人としてもおかしいと思うし、外国人には理解できない。1人では宿泊できないところもある。日本、特に地方に行くと、

日本人でも1人で旅行がしにくい。友達との旅行でも、別々の部屋に泊まれないことがあったりする。

旅行の際に各地の情報を集めようと思ってもなかなか集まらない。情報も無く、何をしたらよいかもわからない、情報をどこから取ったらいいかもわからない。地元の県などに聞いても情報誌に載っているような話しかでてこない。外国から来る方々に対してだけでなく、日本人に対することも含め、ガイドのスペシャリストを各地域で作ったら面白いのではないかと。ウェブを含めて、情報発信にもっと取り組んでほしい。

インバウンドについて、2000万人に向け中国からの観光客を100万人から600万人に増やそうとするのなら、中国のことをもっと勉強しなければならない。受入のための人的資源の開発という点にもっと注力すべき。

インバウンドの増加を好意的に受け入れる人もいる一方で、脅えを抱く人もいるという点については、それほど危惧する必要はなく、継続的に交流と理解を深める努力を続けていけば、いずれは受け入れられる。

国内を観光していて、移動の過程が楽しくないと感じる。花が無い、ポスターが無い、音楽も無い。観光地で楽しい雰囲気になるような工夫をすることが必要。楽しみや笑いの中に旅行を組み立ててほしい。観光庁にももっと笑いが必要。

観光庁設立の意義の一つに縦割りの排除があると思うが、同様の観点から、国のビジョンを考えた時に観光の役割は大きい。観光は、例えば移民受入や外国企業の誘致、留学生受入といった話と大きく関わってくる。観光を広い意味でとらえ、関連する分野を含めて大きな国のビジョンを観光という切り口で、横断的な仕事の一つとして音頭をとっていくという役割も重要。

観光庁がいろいろな取組をしているのはわかるが、誰もがわかるメインのプロジェクトがあったほうがいいのではないかと。外部からの評価も受けやすいし、議論も深めていきやすい。

単なる物見遊山でなく、目的をきちっと持った層、リピーターになりうる層を重点的にターゲットにすべき。欧米人観光客は目的を持った人、リピーターが多い。欧米人が来れば、アジア人も来るはず。

ミシュランから漏れたところで良いところはいっぱいある。ミシュランに任せているのではなく、観光庁も何かしてほしい。

案内表示について、韓国語や中国語だけでなく、フランス語やスペイン語、イタリア語などもあれば洒落て見えるのではないかと。

(文責 観光庁総務課企画室 速報のため事後修正の可能性あり)